

日用大工

山里の古屋ですが、100年近くは経っていると思います。その間茅葺から総2階構造の家に改修されたのは60年前の事です。しかし家の土台部はオリジナルの基礎ですので長年に亘る風雨で腐っている箇所が出ていました。最初に見つけたのは8年前、ずっと気になっていましたが、今回思い切って改修、ドキドキ日用大工の報告です。



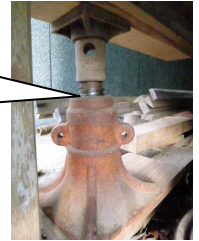
長年おそらく100年位前の土台部分の一部が腐って浮いています。この位隙間があっても木組みで作られていますので他の木組み部分で持ちこたえています。

木組みの臍部分は腐り果てています。



土台の一部を切り取るため念のためジャッキで持ち上げておきます。一部を切り取る柱の上側の梁に支えとしてジャッキを設置。

もう一台を切り取る柱の下側の梁にジャッキを設置。



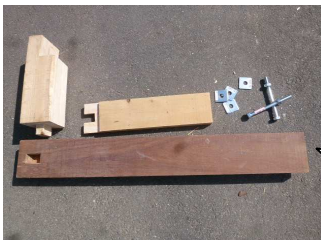
寸法を何度も精査して切り取る寸法を決め、鋸をいれます。やり直しが効かないのでドキドキ緊張しました。

最も簡単な構造の切込みを入れました。宮大工の複雑な構造は望むべきありません。



昔の基礎は、土を固め石を置いただけです。今回基礎部分にコンクリートを流し込む事にしました。

長さ100cm幅120mm深さ50mmにコンクリートを流し込み完了



平行して、付け替える材料を切り出します。入れ替える柱の下側は臍構造、上側は切り込み構造です。採寸には慎重を期します。

防腐剤を塗布しておきます。



寸歩的には「ゼロ構造」で作っていますので入替作業で失敗すると後戻りは出来ません。下側の臍部分の組み付け。

と同時に上側の切り込み部分をあわせませす。



接合部には、木工用ボルトを塗布しながら木槌で叩き込んでいきます。

「ゼロ」寸法の「臍」と「切り込み」を入れ込んだところです。ミリ単位で上下のバランスを保ち、ジャッキを調整しての作業でした。



更に平行して隠し板を作りました。菱形の通気口を設けて防腐剤を塗布。

強度保持にφ10mmのボルトを通し完成！材料はストック木材、工期1週間、材料費はφ10mmのボルト2本。日用大工の完成です

